

昭和43年度畑作用除草剤 試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

当協会委託の昭和43年度畑作用関係新除草剤の作用性および適用性判定試験成績検討会が、客年12月14日東京・日本都市センターにおいて開催された。
その結果の概要をここに紹介する。

1. 供試除草剤の動向

まず、昭和43年度に供試された畑作用除草剤の種類を作物別にみると、第2表の通りである。

これを試験年次別にその変動の推移をみると第1表のとおりで、あまり年次別には変動がみられない。新しい傾向としては、陸稲および畑水稻などを対象としたマルチ除草剤の

開発研究が始められたことである。

2. 昭和43年度の試験結果の概要

次に今年度の試験結果の概要を判定基準によってみると第3表の通りで、実用化に移されたものは19剤、マルチ用4剤、実用化とともに更に一部継続試験に移されたものは11剤、マルチ用2剤であった。これら実用化薬剤の使用基準は、第4表に示したとおりである。

なお、詳細については当協会発行の昭和43年度夏作関係除草剤作用性・適用性判定試験成績要録（印刷手配中）の畑作編を参照されたい。

< 第1表 > 畑作用除草剤試験の推移

区 分	供 試 薬 剤 数				
	昭和40年度	41年度	42年度	43年度	44年度 (試験実施中)
A 除 草 剤					
畑作物一般	12	12	6	9	7
陸 稲	12	14	10	11	8
春 小 麦	4	4	2	4	3
とうもろこし	7	4	8	4	5
甘 しょ	4	9	3	5	4
馬 鈴 薯	0	1	0	3	4
さとうきび	2	1	1	0	0
大 豆	11	10	8	4	13
小 豆	2	4	3	1	9
菜 豆	1	1	3	5	6
落 花 生	6	5	7	4	10
て ん さい	4	4	9	5	6
そ の 他	1	2	3	1	4
B マルチ除草剤					
稲(陸・畑稲)	—	—	—	12	4
早 堀 甘 しょ	—	—	—	—	1
とうもろこし	—	—	—	1	2
落 花 生	—	—	—	—	1
大 豆(枝豆)	—	—	—	1	2
合 計	66	71	53	63	89

注) 昭和44年度の供試薬剤数は昭和44年4月末日現在のものを示した。

<第2表> 昭和43年度畑作用除草剤供試薬剤成分一覧表

A. 除 草 剤

区 分	除 草 剤 名	剤 型	有 効 成 分 お よ び 成 分 含 有 率	委 託 会 社
1) 畑作一般	M O - 5 0 0	乳	2,4-ジクロル-6-フルオロフェニル-4'-ニトロフェニルエーテル 25%	三井東圧化学
	H W - 8 8	乳	2,5-ジメチル-N,N-ジメチルジチオカーバメイト 30%	保土谷化学
	E P T C (エプタム)	乳	エチル-ジ-n-プロピルチオカーバメイト 75%	東洋棉花, 北海三共
	E P T C (エプタム)	粒	〔 同 上 〕 5%	東洋棉花, 北海三共
	R - 1 6 0 7 (パーナム)	粒	n-プロピル-ジ-n-プロピルチオカーバメイト 5%	パーナム研究会 (東棉ほか)
	K H - 1 6 6	粒	ジニトロ系化合物 7%	兼 商
	M K - 6 7 3 9	水和	トリアジン系 50%	三 菱 化 成
	S W - 6 7 0 1	水和	3-(2-メチルフェノキシ)ピリダジン 50%	三 共
	S W - 6 8 0 4	水和	— 50%	三 共
2) 陸 稲	M O - 5 0 0	乳	〔 前 掲 〕 25%	三井東圧化学
	M C C	水和	メチル-N-(3,4-ジクロルフェニル)カーバメイト 40%	S w e p 研究会 (日産化学, 日本農薬)
	M C C 2 0	粒	〔 同 上 〕 20%	S w e p 研究会 (日産化学, 日本農薬)
	M C C 1 5	粒	〔 同 上 〕 15%	S w e p 研究会 (日産化学, 日本農薬)
	リ ニ ュ ロ ン	水和	N-(3,4-ジクロルフェニル)-N-メトキシ-N'-メチル尿素 50%	アフアロン普及会 (ヘキストほか)
	リ ニ ュ ロ ン	粒	〔 同 上 〕 1.2%	丸 和 物 産
	H - 3 3 7	粒	{ P C P : 15.0% リニユロン : 1.0%	丸 和 物 産
	H - 3 3 7	水和	{ P C P : 73.0% リニユロン : 5.0%	丸 和 物 産
	パ ラ コ ー ト	液	1,1'-ジメチル-4,4'-ビピリジウムジクロリド 24%	武 田 薬 品
	N H - 6 8	乳	N I P : 12.5% HE-314 (3-メチルフェニル-4'-ニトロフェニルエーテル) 12.5%	三 洋 貿 易
	T O C - 6 0 1	粒	{ N I P : 4% P C P - Na : 10%	東京有機化学
3) 春 小 麦	S M H - 1 7	液	Ioxynil (3,5-ジ-オ-ド-4-ハイドロキシベンゾニトリル): 20%, MCPA: 20%	塩 野 義 製 薬
	S M H - 1 8	液	Ioxynil: 7.5%, MCPA: 22.5%	塩 野 義 製 薬
	CMPT (TO-2)	水和	5-クロル-4-メチル-2-プロピオンアミドチアゾール 50%	三井東圧化学
	M C P	粉	M C P 70%	2,4-D 協議会
4) とうもろこし	U C - 2 2 4 6 3	粒	3,4-ジクロルベンジルメチルカーバメイト 5%	長 瀬 産 業

区 分	除 草 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委 託 会 社
4) とうもろ こし	N P - 8	乳	N-(2,3,6-トリクロロベンジラド)メチル アミン 80%	日 本 曹 達
	N P - 1 0	水 和	3-(ヘキサヒドロ-4,7-メタノインダニル -5)-1,1-ジメチルウレア 76%	日 本 曹 達
	M C P	粉	M C P 70%	2,4-D 協 議 会
5) 甘 藷	N I P	粒	2,4-ジクロロフェニル-4'-ニトロフェニル エーテル 5%	スタム・ニップ普及会 (三洋貿易ほか)
	トリフルラリン B (トレファノサイドB)	粒	α, α, α -トリフルオロ-2,6-ジニトロ-N,N -ジプロピル-P-トルイジン 2.5%	塩 野 義 製 薬
	パ ラ コ ー ト (グラモキソン)	液	〔 前 掲 〕 24%	武 田 薬 品
	S W - 6 7 0 1	水 和	3-(2-メチルフェノキシ)ピリダジン 50%	三 共
	C A T	粒	2-クロル-4,6-ビス-エチルアミノ-S- トリアジン 2%, 1%	日 本 化 薬
6) 馬 鈴 薯	E P T C (エプタム)	粒	〔 前 掲 〕 5%	東洋棉花, 北海三共
	ア レ シ ン	水 和	N-(4-クロロフェニル)-N'-メトキシ-N- メチル尿素 50%	ア レ シ ン 普 及 会 (ヘキストほか)
	パ ラ コ ー ト (グラモキソン)	液	〔 前 掲 〕 24%	I C I, 武田薬品, 日本農薬
7) 大 豆	N P - 1 0	水 和	〔 前 掲 〕 76%	日 本 曹 達
	T C T P (ダクタール)	水 和	テトラクロールテレフタル酸ジメチルエステル 75%	室町化成, 北興化学
	N I P	水 和	N I P 50%	スタム・ニップ普及会
	トリフルラリン B	粒	〔 前 掲 〕 25%	塩 野 義 製 薬
8) 小 豆	DCNP(クリノン)	水 和	2,4-ジクロル-6-ニトロフェノールナトリウム 一水化物 85%	石 原 産 業
9) 菜 豆	E P T C (エプタム)	粒	〔 前 掲 〕 5%	東 洋 棉 花
	E P T C (エプタム)	乳	〔 前 掲 〕 75%	東 洋 棉 花
	DCNP(クリノン)	水 和	〔 前 掲 〕 85%	石 原 産 業
	N H - 6 8	乳	{ N I P : 12.5% H E - 8 1 4 : 12.5%	三 洋 貿 易
	T O C - 6 0 1	粒	{ N I P : 4% P C P - Na : 10%	東 京 有 機
10) 落 花 生	R-1607(バーナム)	粒	〔 前 掲 〕 5%	バーナム研究会
	N I P	粒	N I P 5%	スタム・ニップ普及会
	N I P	水 和	N I P 50%	スタム・ニップ普及会
	H - 8 3 7	粒	{ P C P : 15% リニエロン : 1%	丸 和 物 産
11) てん さい	E P T C	粒	〔 前 掲 〕 5%	東 洋 棉 花
	P L	水 和	{ P A C : 30% H - 6 3 4 : 40%	丸 和 物 産 (北興化学)
	S W - 4 0 7 2	水 和	〔 前 掲 〕 40%	北 海 三 共
	S W - 4 0 7 2	乳	〔 前 掲 〕 16.7%	北 海 三 共

区 分	除 草 剤 名	剤 型	有 効 成 分 お よ び 成 分 含 有 率	委 託 会 社
11) てんさい	H - 6 6 9	乳	リニエロン : 15% (I P C : 35%	丸 和 物 産
12) こんにゃく	S W - 6 7 0 1	水 和	〔 前 掲 〕 50%	三 共

B. マルチー除草剤

区 分	除 草 剤 名	剤 型	有 効 成 分 お よ び 成 分 含 有 率	委 託 会 社
マ ル チ (陸稲, 畑稲)	M H S	フィルム状	MCC (24,32g/a)	三菱油化, 日産化学
	D H S	フィルム状	DCMU (4,6g/a)	三 菱 油 化 稲 作 マ ル チ 研 究 会
	P H S	フィルム状	プロメトリン (6,8g/a)	三菱油化, 日本化薬 稲 作 マ ル チ 研 究 会
	I H S	フィルム状	クロロIPC (10,15g/a)	クロロIPC普及会 稲 作 マ ル チ 研 究 会
	MCC (スエップ)	水 和	メチル-N-(3,4-ジクロロフェニル) カーバメイト 40%	S w e p 研 究 会 (日産, 日農)
	D C M U (カーメックスD)	水 和	3-(3,4-ジクロロフェニル)-1,1- ジメチル尿素 78.5%	丸 和 物 産
	T D W - 3 9 (カバック39)	乳	ベンジル-N, N-ジエチルジチオカーバメイト 50%	ク ミ ア イ 化 学 (東亜農薬)
	T D W - 6 6 4 3 (カバック43)	乳	ベンジル-N, N-ジイソプロピルジチオ カーバメイト 50%	ク ミ ア イ 化 学
	N I P	粒	2,4-ジクロロフェニル-4'-ニトロフェニル エーテル 5%	スタム・ニップ普及会
	N I P	乳	〔 同 上 〕 25%	スタム・ニップ普及会
	ク ロ ル I P C	乳	イソプロピル-N-(3-クロロフェニル) カーバメイト 45.8%	クロロIPC普及会 (日産, 石原, 保 土谷)
	ク ロ ル I P C	粒	〔 同 上 〕 5%	クロロIPC普及会 (日産, 石原, 保 土谷)
マルチ (大豆)	MCC (スエップ)	水 和	MCC 40%	S w e p 研 究 会
マ ル チ (トウモロコシ)	MCC (スエップ)	水 和	MCC 40%	S w e p 研 究 会

< 第 3 表 > 昭和 43 年度 畑作関係実用化判定表

A. 除 草 剤

区 分	実 用 化	実 ~ 継	試 験 継 続	継 ?	中 止
1) 畑作物一般			MO-500 乳 (落花生) HW-88 乳 E P T C 乳	MO-500 乳 (かんしゅ)	MK-6739 水 (陸 稲)

区 分	実 用 化	実 ~ 継	試 験 継 続	継 ?	中 止
1) 畑作物一般			E P T C 粒 R-1607 粒 KH-166 粒 MH-6739 水和 (落花生) SW-6701 水和 SW-6804 水和		
2) 陸 稲	M C C 水和 M C C 粒 (15%, 20%) H-337 粒 H-337 水和		MO-500 乳 リニュロン 粒 NH-68 乳	TOC-601 粒	リニュロン 水和 バラコート 液
3) 春 小 麦	C M P T 水和 M C P 粉	CMH-17 液	SMH-18 液		
4) とうもろこし	M C P 粉	UC-22463 粒 NP-10 水和	N P - 8 乳		
5) 甘 藷	N I P 粒 トリフルラリン B粒 (挿苗後) C A T 粒	SW-6701 水和			トリフルラリン B粒 (挿苗前) バラコート 液
6) 馬 鈴 薯	バラコート 液 (萌芽前)	E P T C 粒 E P T C 乳	アレシン 水和		バラコート 液 (萌芽後)
7) 大 豆		T C T P 水和	NP-10 水和 N I P 水和 トリフルラリン B粒		
8) 小 豆	D C N P 水溶				
9) 菜 豆	E P T C 粒 E P T C 乳 D C N P 水溶		NH-68 乳	TOC-601 粒	
10) 落 花 生	H-337 粒 N I P 水和	R-1607 粒 N I P 粒			
11) て ん さい	SW-4072 乳 (直播・移植) PL水和(移植)	E P T C 乳 (直播・移植) E P T C 粒 (直播・移植)	SW-4072 水和 (直 播) PL水和(直播)		H-669 乳
12) こんにゃく			SW-6701 水和		

B. マルチー除草剤

区 分	実 用 化	実 ~ 継	試 験 継 続	継 ?	中 止
1) マルチ (陸稲・畑稲)	PHS (プロメトリン) M C C 水和 N I P 乳	MHS (MCC)	DHS (DCMU) TDW-6643 乳		IHS (クロルIPC) DCMU 水和 TDW-39 乳 N I P 粒 クロルIPC 乳 クロルIPC 粒
2) マルチ (大豆)		M C C 水和			
3) マルチ (とうもろこし)	M C C 水和				

< 第 4 表 > 昭和 43 年度 畑作実用化除草剤使用基準一覧表

	薬 剤 名	処 理 法	使 用 量 (成分 g/a)	処 理 時 期	適 用 土 壤	適 用 地 帯	使 用 上 の 注 意
陸 稲	M C C (15% 粒剤) (20% 粒剤)	土壌処理	60~75	播種直後 ~発芽始	火山灰土	全 域	・土壌水分の多い時期に均一に散布する ・雑草発生前に散布する
	H-337 (78% 水和剤)	土壌処理	100~150	播 種 後	火山灰土	全 域	
	H-337 (16% 粒剤)	土壌処理	600~800 (製品量)	播 種 後	火山灰土	全 域	・乾燥時は使用しない
春 播 小 麦	C M P T (50% 水和剤)	雑草処理	30~40	生 育 期 (3~4葉期迄)	火山灰土	北海道全域	
	MCP 改良剤 (70% 粉剤)	雑草処理	4~6	生 育 期 (5葉期)	火山灰土	北海道全域	
	SMH-17 (40% 液剤)	雑草処理	10~15	生 育 期 (広葉雑草 2~3L期)	全 土 壤	北海道全域 (広葉地帯)	・アイオキシニルに準ずる
とう も ろ こ し	UC-22463 (5% 粉剤)	土壌処理	30	播 種 後	火山灰土	十 勝	・土壌乾燥および過湿条件をさける
	NP-10 (76% 水和剤)	土壌処理	30	播 種 後	腐植含量 多い 火山灰土	北海道を除く 全 域	・リニュロンに準ずる
	MCP 改良剤 (70% 粉剤)	雑草処理	4~6	生 育 期 (3葉期)	火山灰土	北海道全域	・従来 of MCP に準ずる
甘 藷	N I P (5% 微粒剤)	土壌処理	20~30	挿 苗 後	火山灰土	全 域	
	トリフルラリン B (2.5% 粒剤)	土壌処理	7.5~10	挿 苗 後	火山灰土	全 域	

薬 剤 名		処 理 法	使 用 量 (成分 g/a)	処 理 時 期	適 用 土 壤	適 用 地 帯	使 用 上 の 注 意
甘 藷	SW-6701 (50%水和剤)	土壌処理	20~30	挿 苗 後	全 土 壤	全 域	
	C A T (1%及2%粒剤)	土壌処理	8~10	挿 苗 後	火 山 灰 土	全 域	・ 均一に散布する ・ CAT水和剤に準 ずる
馬 鈴 薯	E P T C (75%乳剤)	土壌混和 処理	30~40	播 種 前	火 山 灰 土	十 勝	・ 土壌水分高いときは さける ・ 散布後30分以内 に土壌攪拌する
	E P T C (5%粒剤)	土壌混和 処理	30~40	播 種 前	火 山 灰 土	北海道全域	・ 散布後5~10cm 深に土壌混和
	バラコート (24%液剤)	雑草処理	10 (展着剤加用)	萌 芽 前	全 土 壤	全 域	
大 豆	T C T P (75%水和剤)	土壌処理	50~70 (製品量)	播 種 後	全 土 壤	北海道全域	
小 豆	D C N P (85%水溶剤)	雑草処理	20~25	発芽前~発芽期	全 土 壤	北海道全域	・ 生育ムラに注意
菜 豆	E P T C (75%乳剤)	土壌混和 処理	30~40	播 種 前	全 土 壤	北海道全域	・ 土壌水分高い時は さける ・ 散布後30分以内 に土壌攪拌すること
	E P T C (5%粒剤)	土壌混和 処理	30	播 種 前	全 土 壤	北海道地域	・ 散布後5~10cm 以内に土壌攪拌す ること
	D C N P (85%水溶剤)	雑草処理	20~25	発 芽 期	全 土 壤	北海道全域	・ 生育ムラに注意す る
落 花 生	R-1607 (5%粒剤)	土壌混和 処理	15g程度	播 種 前	火 山 灰 土	全 域	
		土壌処理	20~25	播 種 後			
	N I P (5%微粒剤)	土壌処理	25~30	播 種 後	火 山 灰 土	全 域	
	N I P (50%水和剤)	土壌処理	20~25	播 種 後	火 山 灰 土	全 域	
て ん さ い	H-337 (16%粒剤)	土壌処理	600~800 (製品)	播 種 後	火 山 灰 土	全 域	
	E P T C (75%乳剤)	土壌混和 処理	30~40	移 植 前	全 土 壤	北海道全域	・ 散布後5~10cm の深さに土壌混和 ・ 土壌湿度の高いと きは散布をさける
	E P T C (5%粒剤)	土壌混和 処理	25	播 種 前	全 土 壤	北海道全域	
	P L (70%水和剤)	雑草処理	20~30	移植活着後	全 土 壤	北海道全域	
	SW-4072 (16.7%乳剤)	雑草処理	60	活着後(移植・ 直播とも)	全 土 壤	北海道全域	・ 雑草の発生初期に 処理すること